

「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 富里南中学校】

令和6年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について 【※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較】

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
数 学	学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

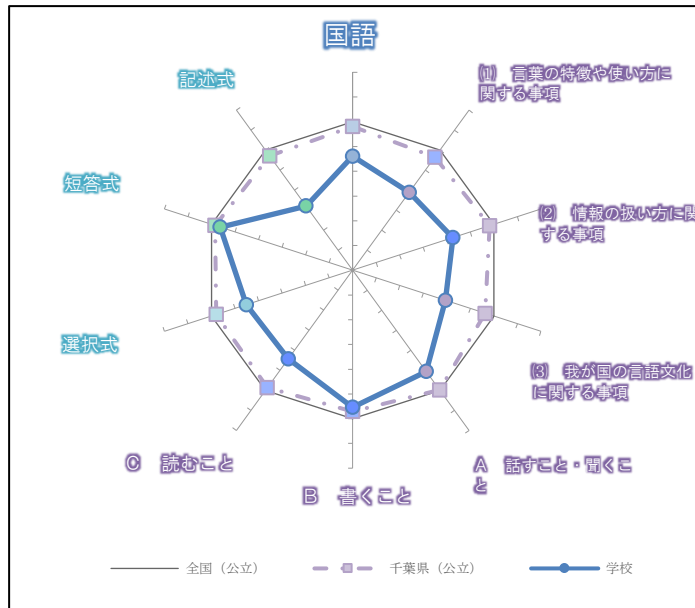
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



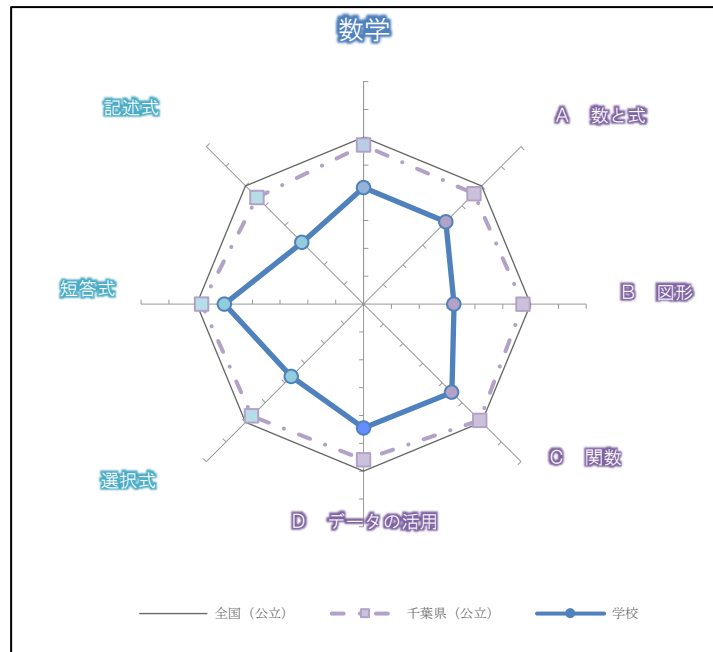
【特徴と現状】

- 思考力、判断力、表現力等『C読むこと』において、県の平均を大きく下回る正答率でした。
- 説明的文章のように、長い文章や馴染みのない語句、概念が含まれた際には、その内容を読み解いていくことが困難だと思われます。
- 記述式の問題に対して、正答率がかなり低く、根拠を明確にして表現する力を育成する必要があります。

【改善方策等】

- 授業の中で文章から読み取ったものを自分の言葉で表現し、文章構成する機会を増やすことで、「読むこと」と「記述する力」の改善を図ります。
- 各単元においてに問題を解き、単元の理解度を確認します。また、授業内で初読の感想を記述させ、問題を解く力や文章を読み取り記述する力の定着を図ります。
- 自分の言葉で要点をまとめる機会を増やし、表現する力の定着を図ります。
- 定期テストに記述問題を取り入れ、学習者の定着度を確認します。
- 毎学期、授業評価アンケートを行い、生徒の取り組む姿勢が向上しているのか確認します。また、授業内で使用したノートやプリントの記載内容を確認します。

数 学



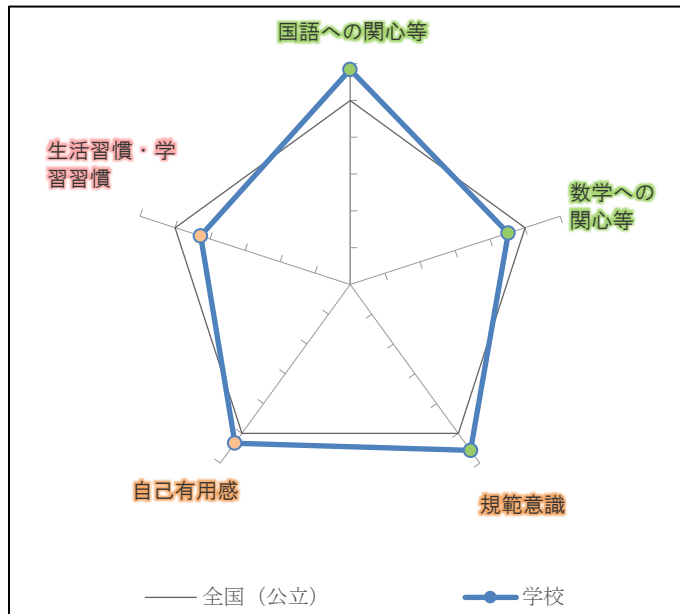
【特徴と現状】

- すべてにおいて正答率が全国を10%以上下回っています。
- まずは基本的な計算能力（数と式の領域）を高めることで、図形や関数の領域にも変化が表れると考えられます。
- 図形領域の正答率において全国や県に比べ大きく差があります。まず、図形の性質を知識として確実に習得させることが必要と考えられます。

【改善方策等】

- 基礎的な計算能力を高めることで、「課題に対して思考する」という段階に進めるようにさせます。
- 授業前に既習の計算問題を出し、それを身に付けさせます。
- 定期テストに記述問題を取り入れることで、学習者の定着度を確認します。
- 毎学期、授業評価アンケートを行い、生徒の取り組む姿勢が向上しているのか確認します。また、授業内で使用したノートやプリントの記載内容を確認します。
- 定期テスト、実力テスト、全国学力学習状況調査の結果を分析し、どの程度力が向上しているのかを確認し、取り組みを改善させます。

(3) 生徒に対する質問紙調査結果及び分析



【特徴と現状】

- 生徒質問紙調査の結果から、多くの項目での意識が高くなっています。特に「人が困っているときは、進んで助けていますか」の問いに対して、肯定的な回答が 88.9%となっていました。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに対しても、肯定的な回答が 90.5%となっており、千葉県や全国の平均と比べると、生徒と教員で良い人間関係が築けていることが分かりました。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対して、「どちらかといえば、当てはまらない。当てはまらない。」の合計が 22.2%と、千葉県や全国の平均と比べると、否定的な回答が多く、自己肯定感の低い生徒が多いことが分かりました。
- 全体的に学習に対する意識は、あまり高くなく、特に数学に対しては否定的な考えの生徒が比較的多くみられました。千葉県や全国の平均値を下回っているため、引き続き理解力を高める授業の実施と家庭学習の在り方を指導してまいります。

3 まとめ

ホームページや学年だより、学級通信、三者面談などで、学校の情報を家庭や地域に発信をし、協力体制の強化に努めます。

経年の結果を見ますと、生活習慣は改善してきていますが「1日当たりの携帯電話やスマートフォンでのSNSの視聴時間」が高く、携帯電話やスマートフォンの使用時間や使用方法が課題となっています。子ども達がスマートフォンに依存せず正しく使うためには、学校でのトラブル防止に向けた取り組みと家庭でルールづくりが重要となります。今後も学校と家庭が連携して改善を図っていきます。引き続き、家庭での御支援をお願いいたします。